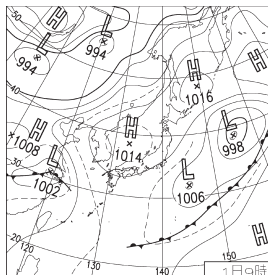


# 日々の天気図

— No. 65

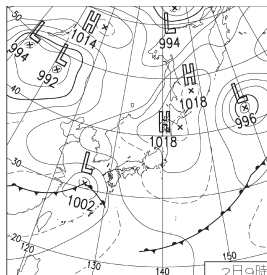
## 2007年6月

- ・2日、薩南諸島で大雨。鹿児島県十島村232.5mmの24時間降水。
  - ・12日～20日、西日本付近に前線停滞。上空に寒気も入り大気不安定。鹿児島県を中心に九州南部大雨。
  - ・北日本、西日本で月間降水量少なく、平年の40%未満の所も多い。福岡県飯塚市12%。
- (気象庁予報部予報課)



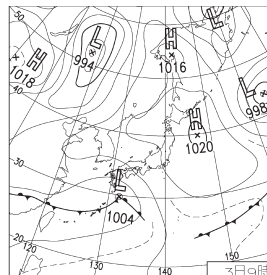
### 1日(金)九州南部梅雨入り

日本付近は日本海とオホーツク海の高気圧に覆われる。北海道と九州を除く西日本は概ね晴れたが、関東、東北、北陸は雨。九州は梅雨前線の接近により雨。



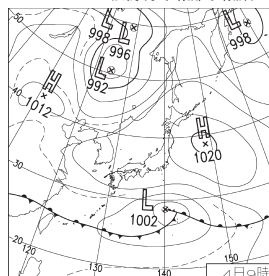
### 2日(土)薩南諸島で激しい雨

北海道から東日本にかけては高気圧に広く覆われて概ね晴れ。西日本は東シナ海の前線を伴った低気圧の影響で曇りや雨。鹿児島県十島村で37.5mm/1h。



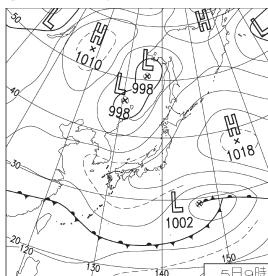
### 3日(日)先島諸島猛暑

北・東日本は高気圧に覆われて晴れや曇り。西日本と沖縄は、梅雨前線の影響で雨や曇り。沖縄県国頭村比地で48mm/1hの雨。先島諸島は晴れて竹富町大原35.3℃は6月の極値。



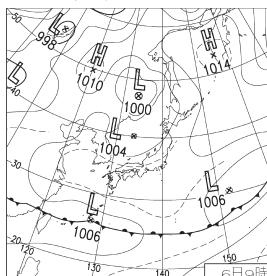
### 4日(月)北アルプス ヘリ墜落

梅雨前線の影響を受けた南西諸島は時々雨。本州は三陸沖の高気圧に広く覆われて概ね晴れたが、本州太平洋沿岸や九州・四国の一部は海上からの湿った東風の影響で曇りや雨。



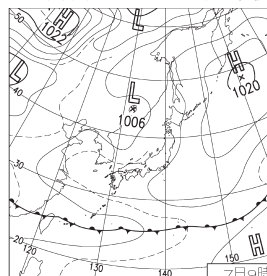
### 5日(火)沖縄で激しい雨

南西諸島は暖かく湿った空気が流れ込んだため、激しい雨。沖縄県慶良間空港で47.5mm/1h。北日本は日中晴れて気温上昇。北海道旭川市で最高気温28.5℃と真夏並。



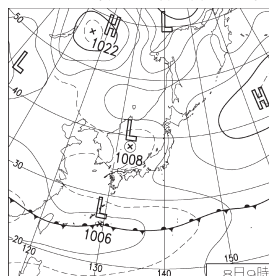
### 6日(水)各地で雷雨

上空に寒気を伴った沿海州の低気圧はほぼ停滞。北海道から近畿にのびる線状の積乱雲域がゆっくり東北東進し近畿以東で雷雨。群馬県野反湖で61.5mm/1hの強雨。



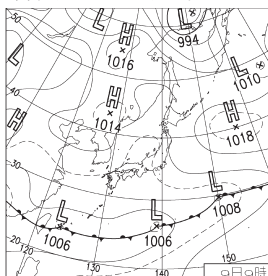
### 7日(木)大気の状態不安定

上空に寒気を伴った低気圧が日本海を南東進、昼過ぎから夜遅くにかけて全国的に雷雨。また、南西諸島では梅雨前線が活発化し、沖縄県南城市糸数で60.5mm/1hの非常に激しい雨。



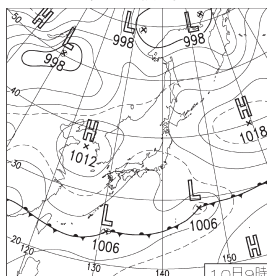
### 8日(金)雷三日

動きの遅い上空寒気の影響で引き続き全国的に不安定。各地で1時間40mm以上の激しい雨を観測。新潟県魚沼市大湯53mm/1h、群馬県榛名山50mm/1h。



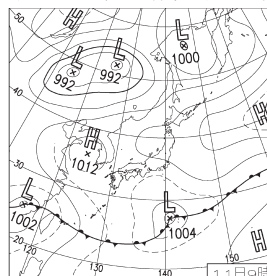
### 9日(土)上空の寒気南下

引き続き全国的に大気の状態が不安定。高知県香美市大橋で79mm/1h(観測史上1位)、静岡県伊豆市土肥で55.5mm/1h(6月の1位)など、局地的に雷を伴った非常に激しい雨。



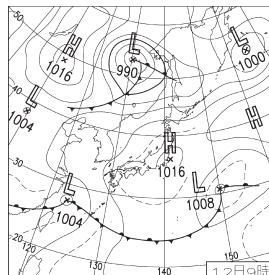
### 10日(日)東海、関東で雷雨

上空に寒気が残る、大気の状態不安定。東日本の太平洋側は雷雨で所々で激しい雨。埼玉県久喜市で89mm/3h(観測史上1位)、千葉県我妻市で56.5mm/1h(6月の1位)。



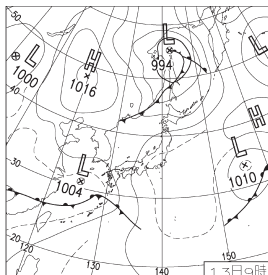
### 11日(月)不安定解消

高気圧に覆われて全国的に概ね晴れ。前線が停滞した沖縄では雨か雷雨。関東は、上空の寒気の影響が残り昼過ぎまで雨。晴れて気温の上昇が著しい。大分県日田で30.7℃を記録。



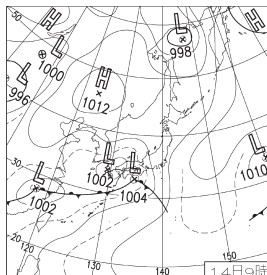
### 12日(火)北海道は初の真夏日

九州南部から南西諸島は低気圧や梅雨前線の影響で曇りや雨。その他は高気圧に広く覆われて概ね晴れ。各地で真夏日。北海道網走支庁津別町で33.2℃など。



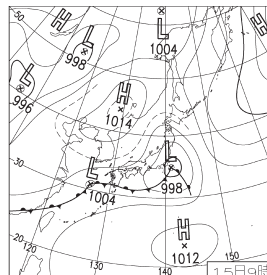
### 13日(水)九州北部、四国梅雨入り

平年より約1週間遅れて九州北部、四国で梅雨入り。北日本は晴れ。北海道東部は連日の真夏日となり、北海道津別町豊永で33.6℃。12日の6月の極値を再更新。



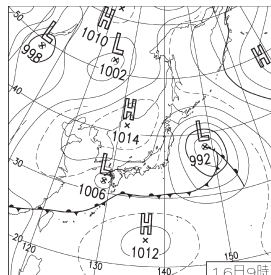
### 14日(木)中国～関東梅雨入り

梅雨前線上の低気圧が本州の南岸を東進。中国・近畿・東海・関東甲信は梅雨入り。鹿児島県肝付町前田で54mm/1hの非常に激しい雨を観測し、6月の極値を更新。



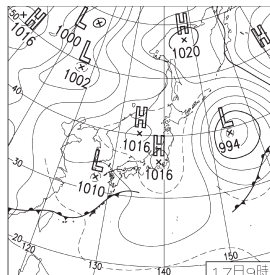
### 15日(金)日本の南北で大雨

梅雨前線は南海上に停滞。晴れた関東、東海を除き概ね曇りや雨。鹿児島県錦江町代で93mm/1hの猛烈な雨。北海道も30mm/1h強の雨。東京都心で初の真夏日。



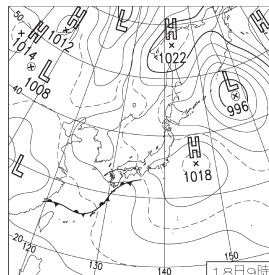
### 16日(土)広い範囲で晴天

日本海の高気圧に覆われ、本州は概ね晴れ。関東甲信は、山越えとなった北の風の影響でフェーン現象。甲府で最小湿度6%、官署では全国1位となる33.7℃を記録。



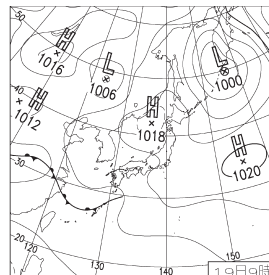
### 17日(日)沖縄付近で前線活発

梅雨前線が沖縄付近に停滞し沖縄本島を中心に非常に激しい雨。沖縄県久米島町久米島空港で61 mm/1h。一方、東日本～北日本は日本海にある高気圧に覆われて晴れ。



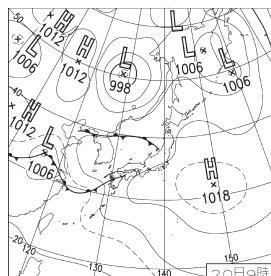
### 18日(月)和歌山県で土砂崩れ

西日本は、近畿や九州を中心に非常に激しい雨。和歌山県南部では24時間降水量が200 mmを超え、田辺市等で土砂崩れ発生。沖縄県名護市宮里でも64.5 mm/1hの非常に激しい雨。



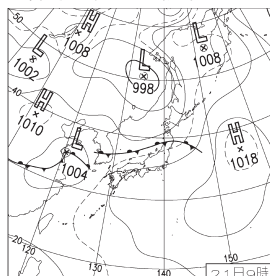
### 19日(火)西日本～南西諸島雷雨

西日本や南西諸島は、上空に寒気を伴った気圧の谷や梅雨前線の影響で、鹿児島県南種子町上中76.5 mm/1h、沖縄県久米島町謝名堂75.5 mm/1hなど局地的に非常に激しい雨や雷雨。



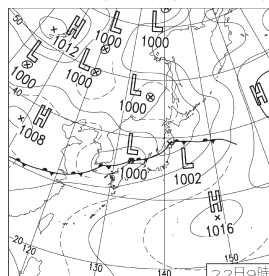
### 20日(水)関東や東北で真夏日

日本海から北日本に前線がのび、夜には北日本で雨。また、東シナ海から九州にのびる前線の影響で九州は所々で雨や雷雨。関東から東海、東北北部の内陸は晴れて真夏日。



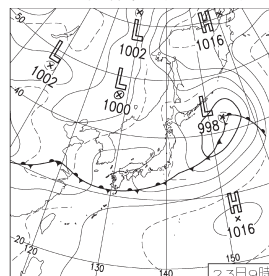
### 21日(木)北陸、東北 梅雨入り

東北地方から北陸地方にのびる梅雨前線がゆっくり南下し、概ね雨や曇り。関東甲信地方は、北部は雨となったが南部は晴れ。沖縄は平年より2日早い梅雨明け。



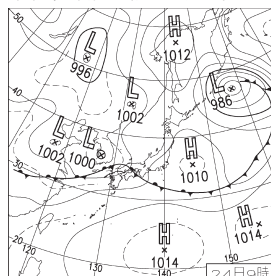
### 22日(金)本州付近は梅雨空

梅雨前線は東北南部から北陸を通過して東シナ海にのびる。東北から九州は概ね雨。鹿児島県錦江町田代屋で107 mm/1hの猛烈な雨、観測史上1位を記録。



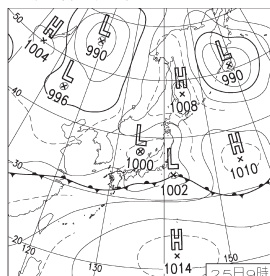
### 23日(土)沖縄夏本番

北海道では気圧の谷の影響で曇りや雨。東北～中国は概ね晴れて関東を中心に真夏日。九州、四国は梅雨前線の影響で雨や曇り。沖縄は晴れて、ほぼ全ての観測所で真夏日。



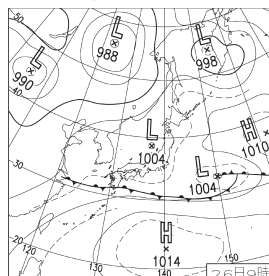
### 24日(日)山陰～九州で大雨

梅雨前線が西から北上。西日本は朝から、東日本も昼過ぎから雨。西日本は局地的に雷を伴って大雨となった所も。北海道は寒気を伴った上空の気圧の谷の影響で所々雨や雷雨。



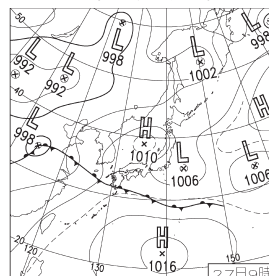
### 25日(月)九州南部で大雨

梅雨前線が九州を南下。鹿児島県志布志市、鹿児島市吉ヶ別府で80 mm/1hの強めの猛烈な雨。東日本は最高気温が25℃に達せず肌寒い。秋田県は軒並み真夏日、北秋田市鷹巣で32.8℃。



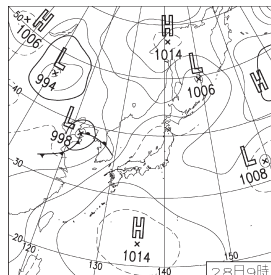
### 26日(火)奄美 梅雨末期の大雨

東シナ海から本州南海上にのびる梅雨前線が奄美地方にかけて活発な積乱雲が次々と発生。奄美地方は激しい雨。鹿児島県佐多241.5 mm/24hを記録。大分県犬飼で34.6℃。



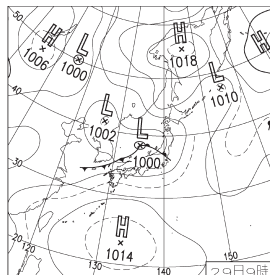
### 27日(水)九州南部で強雨

九州南部で梅雨前線の活動が活発化。鹿児島県南さつま市加世田で65.5 mm/1hの強雨。その他は高気圧に覆われて晴れ。又は曇り。東京大手町は最高気温31.1℃。



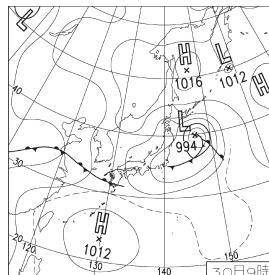
### 28日(木)奄美 梅雨明け

西日本で午前中を中心に雨。北海道の一部で雨。その他は晴れや曇り。日中の最高気温は、全国に7月上旬～真夏並み。梅雨の明けた鹿児島県奄美市名瀬で最高気温が34.6℃。



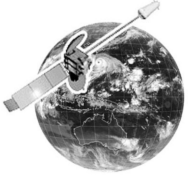
### 29日(金)日本海側で大雨

前線を伴った低気圧が日本海を東進。北～西日本の日本海側を中心に所々で大雨。宮崎県延岡市古江で最高気温35.4℃など、九州・四国の所々で猛暑日を記録。



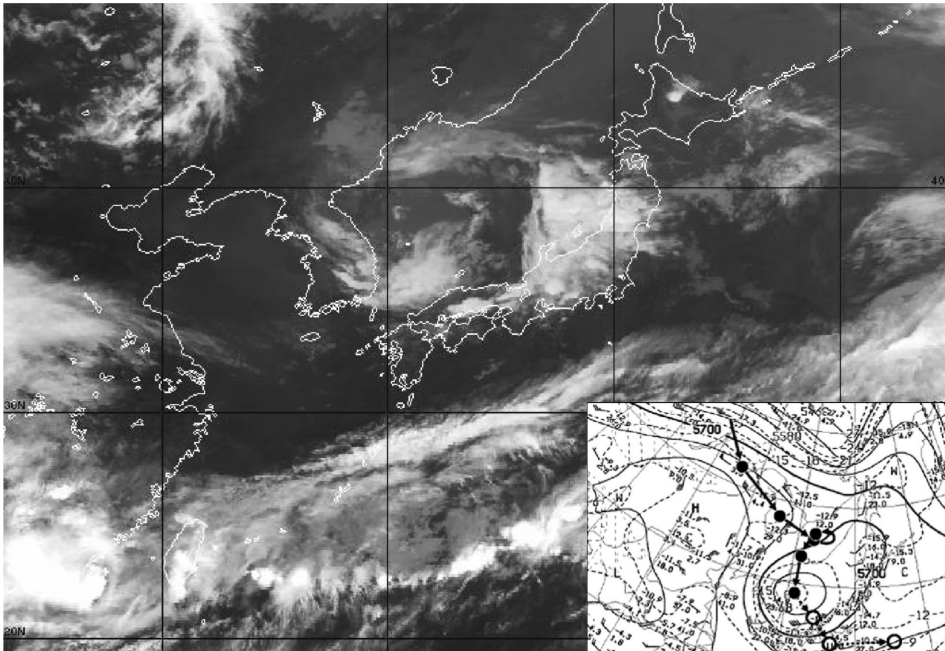
### 30日(土)前線は太平洋側へ

梅雨前線が南下し活動弱まる。北陸や長野県北部の大雨は昼頃まで続き、富山県立山町で215.5 mm/24h。静岡県や高知県は晴れて猛暑日となった所も。



## 今月のひまわり画像—2007年6月

### 遅れた梅雨入りと寒冷渦



2007年6月8日21時の赤外画像

2007年6月8日21時の500 hPa 天気図

6月1日に九州南部の梅雨入りが発表された後、平年なら東海地方と関東甲信地方が梅雨に入る8日になっても、梅雨前線は日本の南海上に離れたままで、春先からの少雨も影響し、各地で水不足が懸念され始めていた。

写真は8日21時の赤外画像、図は同時刻の500 hPa天気図である（黒丸は3日21時から24時間毎の低気圧中心の位置、白丸は翌9日21時から11日21時まで24時間毎の位置を示す）。3日、バイカル湖付近で500 hPaの深いトラフから切離した低気圧循環は、氷点下21°C以下の寒気を伴った寒冷渦として南東進のち南進し、この時刻には日本海西部に達した。中心付近には、氷点下18°C以下の寒気が解析されている。

この寒冷渦に対応する雲渦の中心が日本海西部にあり、周辺には活発な雲域が取り巻いている。特に瀬戸内海周辺から東北南部にかけて、積乱雲が発達している。一方、梅雨前線に対応する帯状の雲域は、南西諸島から本州南海上にのびている。

寒冷渦が北日本に接近した6日から、東海沖に抜けた10日まで、南西諸島を除く各地で連日、落雷や降ひょう、短時間強雨による被害が発生した。一方、偏西風が大きく蛇行した状態が続いて梅雨前線が本州南海上に停滞したため、九州北部地方から東の地方での梅雨入り発表は平年よりも大幅に遅れた。

(気象庁予報部数値予報課 阿部 世史之)